

保育ニュー・スタンダード

子育て支援

— 保育者に求められる新たな専門的実践 —

Support for Child-rearing

[編著者]

太田光洋

[著者]

鈴木純子・伊藤佳代子・圓入智仁・武部愛子・朝木 徹
金山美和子・春高裕美・上野一步・長島ルリ子・中山智哉
赤瀬川 修・品川ひろみ・細川 梢・滝澤真毅・佐藤純子

見本

同文書院

【編著者】

太田光洋 (おおた・みつひろ) / 第1章
長野県立大学教授

【著者】執筆順

鈴木純子 (すずき・じゅんこ) / 第2章
仙台青葉学院短期大学教授

伊藤佳代子 (いとう・かよこ) / 第3章
別府大学短期大学部教授

圓入智仁 (えんにゅう・ともひと) / 第4章
中村学園大学准教授

武部愛子 (たけべ・あいこ) / 第5章
福岡こども短期大学特任教授

朝木 徹 (あさき・とおる) / 第6章
精華女子短期大学准教授

金山美和子 (かなやま・みわこ) / 第7章
長野県立大学准教授

春高裕美 (はるたか・ひろみ) / 第8章
大阪総合保育大学准教授

上野一步 (うえの・あゆみ) / 第9章
一般社団法人トラストコーチング ナーサリーコーチング代表

長島ルリ子 (ながしま・るりこ) / 第9章
NPO法人トラストコーチング マザーズコーチングスクール認定講師

中山智哉 (なかやま・ともや) / 第10章
長野県立大学准教授

赤瀬川修 (あかせがわ・おさむ) / 第11章
安田女子短期大学准教授

品川ひろみ (しながわ・ひろみ) / 第12章
札幌国際大学教授

細川 梢 (ほそかわ・こずえ) / 第13章
福島学院大学講師

滝澤真毅 (たきざわ・まさき) / 第14章
帯広大谷短期大学教授

佐藤純子 (さとう・じゅんこ) / 第15章
淑徳大学短期大学部教授

はじめに

「子育て支援」等の取り組みが始まって30年近くになろうとしています。この間、保育者や保育研究者らの努力によって子育て支援は定着し、子育て家庭の大きな支えになってきました。また、保育者の責務も拡大し、さまざまな子育て家庭の状況に応じた支援のために求められる資質や能力も高度化してきました。

本書は、これまでの保育者による子育て支援実践が積み重ねてきた実績と、研究者が整理してきた理論的根拠をもとに、子育て家庭等に対して行う相談や支援の基本と具体的な展開について学ぶ内容となっています。また、さまざまな課題を抱える家庭や虐待など深刻化する課題に対する支援のあり方などについて、具体的に学ぶことができるよう工夫されています。

本書では、子育ての主体である保護者自身の育つ力を信じて、保育者との信頼関係にもとづくさまざまなコミュニケーションを軸とする「とも育て（共育て）」の姿勢を重視しています。保護者は、教えてもらって育つのではなく、自ら必要とする知識や技能を、見ることや聞くこと、そして話すことを通して獲得し、自分で選び、考え、判断し、行動する力を身につけていきます。こうした学びは、おしなべて人間の学びに共通するものであると考えます。この学びの形態が、単に知識や技能を得るだけでなく、自己の感情や行動を制御する力となり、ときに人に頼ったり、相談したり、支え合う人と関わる力を育て、自分らしく幸福な人生を送る基盤になっていきます。このような視点からカウンセリングや社会福祉援助技術に加えて、新たな試みとしてコーチングを含める内容としました。

孤立化した子育てを、保育者がそれぞれの子育て家庭とていねいに向き合うことによって人との関わりのなかで行われる子育てとして取り戻し、子どもにとっても、保護者にとってもより良い子育ての環境をつくっていくことに本書が寄与できることを願っています。

編著者 太田光洋

Contents

執筆者 …… ii

はじめに …… iii

第1章 子育て支援とは何か …… 1

1 子育て支援とは何か …… 1

1) 子育て支援は誰のための、何のための支援か …… 1

2) 子育ての能動的な主体としての保護者観 …… 2

3) 親子を一体的に捉える支援 …… 2

2 子育て支援を捉える観点 …… 3

1) 子育て支援をどのように捉えるか …… 3

3 現代の子育ての特徴と支援の必要性 …… 5

1) 子育て支援が必要とされる背景 …… 5

2) 親の未熟さの要因は社会の責任 …… 6

4 子育て支援における保育者の役割 …… 7

1) 相談支援の土台となる信頼関係 …… 7

2) 相談支援における保育者の役割 …… 8

第2章 保育者の行う子育て支援の特性 …… 11

1 子どもの保育とともに行う保護者の支援 …… 12

1) 幼児期に育みたい資質・能力と保護者との協働 …… 12

2) 子どもの生きる力の基礎としての家庭と園の共育 …… 14

2 日常的・継続的な関わりを通じた相互理解と信頼関係の形成 …… 15

1) 子ども、保護者と信頼関係の輪を広げる …… 15

2) 保護者との信頼関係に必要な乳幼児期の知識と環境の整備 …… 17

3 保護者や家庭の抱える支援のニーズの気づきと多面的な理解 …… 18

4 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 …… 19

1) 保育参観、保育参加 …… 19

2) 保護者会（保護者懇談会、懇談会） …… 20

3) 運動会、発表会等 …… 21

4) 夏まつり、餅つき、凧あげ等 …… 21

5) 食育：畑作り、梅干し・味噌づくり等 …… 21

6) 地域子育て支援事業等 …… 22

第3章 子育て支援の展開 …… 23

1 支援ニーズへの気づきと理解 …… 23

1) 保護者の抱える不安と課題 …… 23

2) 葛藤の背景にある家族の状況 …… 24

2 子育て支援のプロセスと基本姿勢 …… 26

1) 各家庭の幸せを専門職として支援する …… 26

2) 保護者のエンパワメントに向けたプロセス …… 27

3 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 …… 30

4 支援計画と環境づくり …… 32

1) 計画策定のポイント …… 32

2) 支援に向けた人と施設という環境 …… 32

3) 地域と連携した環境づくり …… 33

5 支援の実践・記録・評価・カンファレンス …… 34

1) 支援における記録の重要性 …… 34

2) 事例の検証と支援実践に向けたカンファレンス …… 36

第4章 支援のための連携と協働 …… 39

1 職員間の連携・協働 …… 39

- 1) 児童福祉施設と職員 …… 39
- 2) 保育者同士の連携や協働の方法 …… 40

2 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 …… 44

- 1) 地方自治体との連携・協働 …… 45
- 2) 警察や消防、家庭裁判所との連携・協働 …… 46
- 3) 保育・教育機関との連携・協働 …… 47
- 4) 医療機関との連携・協働 …… 47
- 5) 地域社会との連携・協働 …… 47
- 6) 保育者養成校との連携・協働 …… 48
- 7) 業者との連携・協働 …… 49
- 8) ボランティアとの連携・協働 …… 49

第5章 保育者に求められる子育て支援の基本 …… 51

1 保護者の孤立状況と保育者の役割 …… 51

2 保護者との信頼関係をどのように作るか（相談につなげやすい環境とは） …… 52

- 1) 保護者と保育者が相互に期待していることを理解する …… 52
- 2) 信頼関係を築くためのポイント …… 53

3 専門性を生かした保護者の理解と関わり方 …… 56

- 1) 相談の進め方 …… 56
- 2) 保育者による助言 …… 58
- 3) 情報提供 …… 58
- 4) 行動見本提示 …… 60
- 5) 子育て相談の特徴 …… 60

4 相談援助技術 …… 62

- 1) カウンセリング技術 …… 62
- 2) バイステックの7原則 …… 63

第6章 保育所等における支援 …… 67

1 保育所等に求められる支援ニーズ …… 67

- 1) 子育てに悩む保護者の実際 …… 67
- 2) 子育て支援ニーズへの取り組み事業 …… 68
- 3) 保育所等における保護者に対する子育て支援 …… 70
- 4) 日頃の保育を通じた子育て支援 …… 72

2 保護者の子育てに関する悩みと相談内容 …… 73

- 1) 相談を受けた時の対応のポイント …… 73
- 2) さまざまな保育活動を生かした子育て支援 …… 75
- 3) 保護者とのさまざまなコミュニケーション方法 …… 77

3 事例と演習 …… 80

第7章 地域の子育て家庭に対する支援 …… 83

1 支援の場に求められる支援ニーズ …… 83

- 1) 地域の子育て家庭に対する支援の特徴 …… 83
- 2) 保育所、幼稚園、認定こども園に求められる支援ニーズ …… 86
- 3) 支援センターやひろばに求められる支援ニーズ …… 87
- 4) 一時預かりの場における支援ニーズ …… 90

2 保護者の子育てに関する悩みと相談内容 …… 93

- 1) 子どもの育ちについての見通しがもてない …… 93
- 2) 子どもの発達への不安 …… 93
- 3) 子育ての具体的な方法が分からない …… 94
- 4) 子育て親子の交流のきっかけ …… 95

3 事例と演習 …… 95

1) みんな特別な背景をもつ親 …… 99

1) 出生から生後6か月頃までの乳児家庭の特徴 …… 102
2) マタニティブルーズとは …… 102
3) 新生児期の新しい取り組み …… 103
4) 産後クライシスの始まり …… 103
5) 新生児期の母親に必要な支援 …… 105
6) 新生児期の母親に多い悩み・相談 …… 107

1) 生後6か月頃から1歳頃までの乳児家庭の特徴 …… 108

2) 乳児から幼児へ・復職と保育所 …… 110

3) 経産婦の場合 …… 111

4) 母乳育児の継続 …… 111

5) この時期に必要な支援 …… 111

6) 乳児期の母親に多い悩み・相談 …… 112

7) 乳児をもつ保護者の支援と今後の課題 …… 113

1)【事例と演習1】 保冷剤に囲まれた赤ちゃんの解説 …… 114
2)【事例と演習2】 頑張っている私を見て！の解説 …… 115
3)【事例と演習3】 飲みたいだけ飲ませていました…の解説 …… 115

1) 子育て支援とは 117
2) コーチングとは 117
3) ティーチングとコーチングの違い 118
4) コーチングのルール 120

1) 各保育機関や児童福祉施設等内の空間・雰囲気作り …… 122

2) 今関わっている保護者と信頼関係を築く …… 123

3) 保護者に伝わるメッセージ …… 125

第10章 気になる子どもや発達障がいのある子どもと家庭に対する支援 …… 129

1) 保育現場における気になる子ども・発達障がいのある子どもの増加 …… 129

2) 発達障がいを理解する …… 130

3) 障がいの並存と二次障がい …… 131

4) 保護者と保育者の協働 …… 132

1) 発達障がい児や気になる子どもの子育ての困難さ …… 133 2) 障がいの受容のプロセス …… 133
3) 家族内のジレンマ …… 134 4) 子どもの姿をどのように共有するか …… 135

1) 子どもを支える保育上の環境づくり …… 136

1) 連携機関の種類と連携内容 …… 141
2) 連携による支援の有効性 …… 142
3) 連携の際の留意点 …… 143

第11章 特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援 …… 145

1 特別な配慮が必要な家庭とは …… 145

- 1) 特別な配慮を必要とする家庭の定義 …… 145 2) 特別な配慮を必要とする家庭への支援 …… 146

2 外国にルーツをもつ子どもや保護者 …… 146

- 1) 外国にルーツをもつ子どもとその現状 …… 146
2) 保育所保育指針等での外国にルーツをもつ子どもに関する記載 …… 147
3) 子どもと家族が抱える課題 …… 148

3 貧困家庭 …… 150

- 1) 子どもの貧困 …… 150 2) 子どもの貧困の現状 …… 150
3) 子どもの貧困に対する政府の取り組み …… 152 4) 保育所による貧困問題への対応 …… 153

4 母親の病気 …… 156

- 1) 母親の病気についての現状 …… 156 2) 産後うつなどの女性特有の病気 …… 156
3) 子どもと親への包括的な支援 …… 157 4) ヤングケアラーの実態と対応 …… 158

5 事例と演習 …… 160

第12章 児童虐待の予防と対応の実践 …… 163

1 児童虐待とその対応 …… 163

- 1) 児童虐待の定義と特徴 …… 163 2) 児童虐待の現状について …… 164
3) 虐待の判断の視点 …… 165 4) 体罰等によらない子育て等の推進 …… 165
5) 児童虐待における保育機関の役割 …… 167

2 児童虐待の発見 —不適切な養育が疑われた場合— …… 167

- 1) 虐待を発見する視点 …… 167 2) どのような場合に虐待を疑うべきか …… 167
3) 園生活において虐待を発見する視点 …… 168 4) 虐待発見に向けたリスク要因の理解 …… 168
5) 保護者からの相談 …… 170

3 子ども虐待の通告と対応 —関係機関との連携— …… 171

- 1) 通告の根拠 …… 171 2) 通告のために必要な準備 …… 172
3) 要保護児童対策地域協議会の役割 …… 173 4) 虐待認定後の対応 …… 173
5) 保育所の役割 …… 175

4 事例と演習 …… 176

第13章 要保護児童等の家庭に対する支援 …… 179

1 「要保護児童」とは …… 179

2 「要保護児童」と家庭への支援 …… 180

- 1) 保護下の生活 …… 180 2) 施設入所児童と保護者のつながり …… 181
3) 支援に関わる関係機関 …… 183

3 社会的養護と乳児院、児童養護施設、里親 …… 185

- 1) 社会的養護を具体的に実施する施設と制度 …… 185 2) 家庭支援専門相談員と里親支援専門相談員 …… 186
3) 施設等における家族を対象とした子育て支援 …… 187

4 事例と演習 …… 188

第14章 多様な保育ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援 …… 191

1 多様化する保育と支援のニーズ …… 191

- 1) 子育て環境の変容—多様化以前と以後— …… 191
- 2) 保育制度の整備と少子化対策 …… 192
- 3) 多様化する保育ニーズ …… 193

2 保護者の多様なニーズに応える保育事業 …… 196

- 1) 延長保育 …… 196
- 2) 休日保育 …… 198
- 3) 病児保育 …… 199
- 4) 一時預かり等（預かり型支援） …… 200

3 事例と演習 …… 201

第15章 子育て支援をめぐる今後の課題 …… 207

1 社会・子育ての変化と子育て支援 …… 207

- 1) 家族形態の多様化 …… 207
- 2) 変容する家族のあり方 …… 208
- 3) 子育て世帯の孤立化と家庭のニーズ …… 209

2 移り変わる支援の場 …… 210

- 1) 子どもが育つ場所 …… 210
- 2) 保育所保育指針に示される子育て支援の対象 …… 211

3 支援の充実としての保育の質、支援の質 …… 212

- 1) 保護者のエンパワメント支援 …… 212

4 これからの子育て支援に向けて …… 217

さくいん …… 220

第1章 子育て支援とは何か

学びのポイント

- 「子育て支援」の対象と目的を理解して、子育て家庭の捉え方を知る。
- 現代の子育て支援の実情を捉えた4つの観点を押さえる。
- 子育て支援のニーズの背景と特徴を知り、保護者との関係性について考えを深める。
- 相談支援の基礎となる信頼関係、ならびに支援における保育者の役割を学ぶ。

「子育て支援」という言葉は今日ではあたりまえに使われるようになった。幼保連携型認定こども園では、子育て支援は必ず行わなければならないものになり、保育所や幼稚園などでも同様にその実践が期待されている。園に期待されているということは、すなわちそれぞれの保育者の役割のひとつになっているということである。

しかし、「子育て支援」という言葉はそれが行われる場面や文脈によってさまざまな使われ方がされている。また、支援が行われる場によってその内容が異なることも多く、誤解されることも少なくない。本章では、具体的な子育ての相談や支援の基本となる子育て支援の概念について整理し、その具体的な相談や支援の基本的な考え方や特徴について理解しておこう。

1 子育て支援とは何か

1) 子育て支援は誰のための、何のための支援か

子育て支援とは、「親が子育ての主体として安心して子育てができる環境をつくり、子どもとの関わりを通して親としての成長を支えることによって、子どもの最善の利益を保障する健やかな成長を促す営み」と定義することができる。また、その際大切なことは、親（保護者）を子育ての主体として位置づけ、社会のすべての人々が協力して子育てがしやすい環境をつくることである^{*1*2}。

つまり、子育て支援は、最終的に子どもの健やかな育ちを支えることを目的として行うものである。「子育て支援」という言葉を表面的に捉えてしまうと「子育てをする親のための支援」と捉えてしまいがちだが、そうではないことに留意し

^{*1} 太田光洋「子育て支援とは何か」保育の実践と研究、スペース新社、Vol.6 No.4、2002、p.10-19

^{*2} 大豆生田啓友「支え合い、育ち合いの子育て支援」関東学院大学出版会、2006

たい。「子育て支援」は子どもの最善の利益を^{*1}めざすものであり、親のニーズに優先する。たとえば、保護者の仕事が休みの日にも長時間の保育所利用が恒常化するような、保護者から求められるままに行われる「サービス」が子どものためにならない場合がある。保育者も葛藤を感じるケースである。

また、子育て支援は、子育ての当事者だけで成り立つものではないため、家庭や園だけでなく、子育てを取り巻く社会のすべての人々の協力によって子育てしやすい環境をつくっていくことが求められる。

2) 子育ての能動的な主体としての保護者観

子育て支援の前提には、親も子も自ら育つ力を持っており、環境との関わりからさまざまなことを能動的に学ぶ有能な学び手であるという発達観にもとづいている。子育て支援は試行錯誤を繰り返しながら洗練され、理論化されてきたが、これまでの実践は親がその未熟さを人や環境との関わりを通して克服できることを明らかにしてきた。つまり親として育つ環境を整えることで、親は自ら主体的に学びとり、親としての課題を乗り越えることができるようになってきたといえる。こうした事実から、子育て支援や相談の実践は、こうした親の育つ力への信頼を基本とする取り組みとして計画・実践することが必要である。



***1 子どもの最善の利益**：1989年に国際連合が採択した児童の権利に関する条約(通称「子どもの権利条約」)の第3条第1項に定められ、子どもの権利を象徴する言葉として国際的にも広く浸透する。保護者を含む大人の利益が優先されることをけん制し、子どもの人権を尊重することの重要性を表す。日本は1994(平成6)年に批准。

3) 親子を一体的に捉える支援

親のニーズと、保育者がそれに応えることがもたらす子どもにとっての意味を考えると、それぞれの親子の状況をふまえ、個別具体的に支援することが大切である。支援が求められる内容は一度に解決できるものばかりではなく、時間を要することもあり、それぞれの親子の状況に応じて段階的にできることから進めていく必要がある。そのため、それぞれの親子の状況の個性への配慮や支援を計画する際には親子をユニットとして捉える視点を欠かすことができない^{*2}。

子育て支援の取り組みは、「親の支援か、子どもの支援か」という相反するものと捉えるのではなく、それぞれの親の子育てを支えることを通して「親の育ち」と「子どもの育ち」をともに保障できる支援のあり方を模索するものであるといえる。

子育て支援の実践においては、子どもの最善の利益がもっとも優先されなければならないが、それが親に対する支援を通して実現されるということが十分に尊

***2 Winnicott, D. W.**, "Babies and their Mothers", Free Association Books, London, 1988
ウィニコット(1896-1971)はイギリスの児童精神科医。豊富な児童臨床経験から、母と子どもの一対が基本単位であると提唱。

しては、「今日も一人でやるとがんばっていたのですよ」「前後の違いが自分で分かるようになりましたね」「お家でもおんなじと
いていましたよ」など、生活や遊びのなかでの子どもの様子を
伝え、子どもの頑張りを共に応援したり、できるようになったこ
とと一緒に喜び合うことが重要である。もちろん保護者の頑張り
や工夫についても、「(衣服の)どこを見るといいのかを示してい
ただいたことが、できることにつながったのですね」など、具
体的に努力を認めることが子育ての自信になり、喜びになる。子
どもが達成感や満足感を得ることは保育者にとっても大きな喜びだ
が、それを保護者と共有できることがさらに嬉しいことになるの
である。そのような日々の積み重ねが保護者との信頼関係を築く
いしずえ
礎 となっていく。



2) 子どもの生きる力の基礎としての家庭と園の共育て

乳幼児が健やかに育つには、生活リズムを整えること(規則正しい生活)や人との関わりが大切である。保護者や保育者は子どもが接する一番身近な大人である。

朝、日の光を浴びて目覚め、昼は楽しく遊び、夜は、充分睡眠を取る。この当たり前のことが重要であり、また難しいことでもある。「早寝早起き朝ごはん」という言葉を聞いたこともあるのではないだろうか。そのような環境を整えるのは保護者であり、保育者は保護者がその重要性を理解し、頑張ろうとする気持ちを受け止め支援していく。共に子育てをするのである。生活リズムが整ってくると親子の関係も安定してくる。

絵本を親子で楽しむことは、親子の関係をつなぐものとなる。保育所や幼稚園等では、絵本の時間を大切にしている。絵本の貸し出しを行っている園も多い。子どもの好きな絵本を見ながら子どもと一緒に過ごすことが親子の関係を温かなものにする。子どもに話しかけたり耳を傾けたりする日常生活のなかで、親子の絆が強くなっていく。生活リズムが整い親子の関係が安定していると、子どもはその安全基地を土台として日中過ごす保育所や幼稚園等においてさまざまな活動を力いっぱい行うことができるのだ。保育者にはそのような子どもの嬉しそうな満足そうな姿をぜひ保護者に伝えてもらいたい。子育ての喜びを保護者と共有したい。



絵本の棚



絵本の返却棚

【事例1】 初登園の不安

初登園の日、H君（3歳）の母親（28歳）が担任保育士に「友だちができるでしょうか？」と不安な表情でたずねた。担任保育士が「大丈夫ですよ、子どもはすぐに慣れますから」というと、母親は「…いえ私が…」と答えた。

【事例2】 園行事に参加しない母親

実家で暮らすシングルマザーのIさん（35歳）は、園の行事にほとんど参加することがなく、一人息子のT君（6歳）の送迎はIさんの実母が行っている。たまに見かける親子一緒の場面では、Iさんの笑顔はほとんど見られない。



【事例3】 乱暴な男児

S君（5歳）は、粗暴な行為が目立ち、たびたびトラブルを起こしている。子どもたちだけでなく園の送迎時には他児の保護者を背後から蹴ったりするため、子どもや保護者から問題児として敬遠されている。担任保育士が注意しても全く改善が見られず対応に困っている。

事例1から3は、よく見かける場面であるかもしれない。しかし、その場面の奥には表面化することのない保護者の悩みがうかがえる。よくある出来事として見過ごされがちな場面に隠れている保護者の葛藤を想像して、思い込みではなく専門的な視点で支援ニーズを把握することが重要である。

2) 葛藤の背景にある家族の状況

以下それぞれの事例の家族の状況と背景を簡単に記載するので、保育者としてできることはないかを考えてもらいたい。

【事例1】の背景

H君の母親は、これまで専業主婦で理想の母親を目指して頑張ってきた。食事は手作りにこだわり子どものために努力しているが、H君は食が細くいつも食べ残してしまう。父親は仕事が忙しく、休みの日は育児より自分の趣味を優先している。

孤立した子育てに不満が溜まっていた母親は、ある日食事を食べ残したH君を激しく叱責した。それを見た母親の実母（H君の祖母）は、子育てに疲

も分かりやすく誤解の生じない明確な表現を心掛ける必要がある。

2) 事例の検証と支援実践に向けたカンファレンス

支援の実践において、事例について協議するカンファレンスは、事例を検証して学びを深め、支援の方向性を検討する会議である。施設全体で問題を共有して支援方法を決定するだけでなく、他機関との連携に際しても記録は重要な支援ツールとなる。

【事例と演習】 仕事・子育て・介護ストレスに悩むMさん

Aちゃん（3歳）は、母親のMさん（33歳）、Mさんの両親（祖父68歳 祖母63歳）と暮らしている。首都圏に暮らしていたMさんは、1年前に借金を重ねた夫と協議離婚し、子どもを連れて地方の実家に戻ってきた。離婚した元夫とは音信不通の状態で、養育費等は受け取っていない。

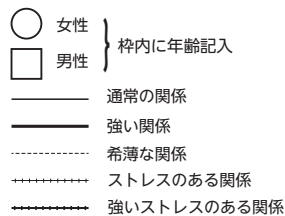
今後の生活を考えたMさんは3か月前に飲食店に正社員として就職し、Aちゃんは保育園に通うことになった。ある日、取り乱した様子のMさんは、担任保育士に相談を依頼し、「昨日、Aを何度も叩いてしまいました」と涙ながらに話し始めた。Mさんが話した内容は以下のとおりである。

- 脳梗塞の後遺症で要介護状態となった父親は、介護サービスの利用を拒否して自宅に引きこもっているため、病弱な母親と2人で介護している。
- 近隣との交流はなく、離婚後は友人と疎遠になったので悩みを相談する相手はいない。
- トイレットトレーニングが進まず、たびたび失敗するAちゃんにイライラする。
- 職場ではアルバイトが次々に辞めて負担が増大し、仕事・子育て・介護で忙しい毎日が続いている。

演習

- 事例をもとに、カンファレンスの資料となる記録としてMさんを中心としたエコマップにまとめてみよう。エコマップの基本表記は右の例を参照のこと。

エコマップの基本表記



で感じることでできる良い機会となっている。

3 事例と演習

各家庭において保護者が感じている子育ての悩みや不安に対して、園の保育者がどのように子育て支援を行っているのか、次の演習課題を通して考えてみましょう。

演習課題のねらい

- 保育所等を利用している保護者の気持ちや思いを理解する。
- 保育所等に通っている子どもとその保護者への具体的な関わりを担当保育者の立場から捉え、必要な援助を考える。

進め方

- 各自で事例を読み、自分なりの意見や考えを書き出す。
- グループになって、各自で書き出した意見や考えを発表し合う。

【事例と演習 1】 離乳食がうまく進められない保護者の悩み

Aくん（男児：0歳8か月）の保護者

離乳食を始めてから1か月が経ちますが、おかゆ（白米）しか食べてくれません。野菜を見ると顔をブイッと横に向けたり、口を結んで食べません。このままよいのかなと不安になります。

演習

- Aくんの保護者は、どのような気持ちで子育てをしているだろうか。担任保育者になったつもりで、事例に対する自分なりの意見や考えを書き出してみよう。

この事例について、実際に担任保育者がどのような援助を行ったのか見てみよう。

【事例と演習 1】 担任保育者が実際に行った援助

「Aくんが一日を通して園で安心して過ごせている様子を保護者にお伝えしながら、なかなか離乳食を上手に進められないという保護者の焦る気持ちや不安な気持ちをきちんと受け止められるように心がけています。離乳食に関する情報提供を行う際には、個人差やそれぞれの子どもの育ちに合わせた離乳食の進め方に配慮し、丁寧にお伝えしています。また、食材の種類、かたさや味つけを替えてみるといった調理方法の工夫と園での食事環境も一緒に見てもらいながらご家

【事例と演習1】 保冷剤に囲まれた赤ちゃん

8月下旬のある日、生後2か月の乳児のいる家庭に乳児家庭全戸訪問した際の事例である。この家庭は一歩足を踏み入れただけで、熱気を感じる家庭であった。とても暑かった。乳児の部屋に入室すると、図のようにベビー布団に寝かせられていた。乳児から20cmほど離れたところに、乳児の全周を取り囲むように置かれた無数の四角いモノがあった。皆さん



はこれが何かわかるであろうか？これは、ケーキなどを購入した際についてくる「保冷剤」である。この母親は、どこかで聞かされた「赤ちゃんにはエアコンを使用してはいけない」という誰かの教えを、忠実に守っていたのである。母親に知的な問題があるとか、コミュニケーションの問題があるとか、そういうことはない。一般的な母親であり、夫もいる。母親本人は汗だくなのである。もちろん、家庭にエアコンは設置されているし、扇風機もある。

演習

- ①「誰かの教え」は誰の教えだと思うか、話し合ってみよう。
- ②この保冷剤に囲まれた状態はなぜいけないのか。母親に説明するつもりで理由を考えよう。
- ③友人とペアになり、母親へなぜいけないのか、代替手段とその具体的な方法について説明しよう。ただし、母親は「エアコンは使用してはいけない」と思い込んでいる。

3 生後6か月頃から1歳頃までの乳児家庭

1) 生後6か月頃から1歳頃までの乳児家庭の特徴

子どもが活発に動き始めるこの頃になると、乳児は探索行動が始まり、はいはいや伝い歩きなどで、自分の思うままに行動範囲を広げていく。手の動きでは、ものをつかめるようになり、それを口に運んで確かめようとする。成長は喜ばし

不安をあおるだけになってしまうので、保育のなかで実践している具体的な“子どものため”の支援方法も併せて伝えていくことが重要である。

c. 保護者の心配が高まる時期

保護者が子どもに発達上の課題や障がいがあるかもしれないと気づきはじめると、不安感の高まりや動揺など心の葛藤がみられることがある。子どもの障がいを否定するために、問題となる行動を厳しく注意するなど不適切な対応を取ってしまうこともある。この時期は、こうした保護者の“心の葛藤”を理解しながら、専門機関につなげていくことが必要である。

d. 子どもの育ちの理解が深まり、行動する時期

子どもの育ち（障がい）に理解が深まり、保護者のほうでも何らかの行動を取り始めたら、園全体で保護者とともに子どものニーズへの具体的対応を考えていくことが必要である。その際、保育者には保護者の揺れる思いを理解し、“支え続ける”役割が求められる。

3 子どもと保護者にとって過ごしやすい環境を作る

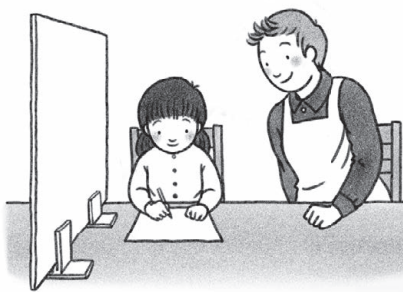
子どもと保護者にとって、園が過ごしやすくなる環境を作ることが支援につながる。親子ともに心地よく過ごせることが、親子関係を安定させ、愛着形成など親子を結びつけることにつながる。

1) 子どもを支える保育上の環境づくり

発達障がいのある子どもや気になる子どもの支援でもっとも大切なことは、子どもにとって過ごしやすい環境づくりである。子どもの特性に応じた支援、たとえば、見通しをもって集団生活をできるよう工夫するなどして、子どもにとって園での生活が楽しいと感じられるような環境を作り出すことである。子どもの楽しむ姿を見て、保護者も園を信頼してくれるようになる。

① 刺激の統制

一つの活動をする際に、友だちの様子や周囲の刺激に気を取られてしまい、集中できないことがある。そうした際は子どもの注意がそれないように、保育環境を見直すことが大切である。例えば、お絵かきや製作などの活動をする際に、パーテーションなどで仕切りのある空間を作り、周りの様子が子どもの目に入らないようにすることで、一つの作業に集中しやすくなることができる。保育室内の飾りやおもちゃ等の置き場も工夫し、



5 事例と演習

ここまで学んだことをもとに、次の3つの事例において、保育者として適切な支援と対応について考えてみましょう。

【事例と演習1】 外国にルーツをもつ子ども

ブラジル出身のE君(5歳男児)は、日本で3年間働いているブラジル人の父親に呼び寄せられて、母親と兄とともに2か月前に来日した。家族全員、日本語の読み書きや会話はほとんどできない。E君は3週間前から保育園に通っているが、他の園児との関わりも少なく、寂しげな表情でひとりで遊んでいることが多い。保育者の簡単なポルトガル語での呼びかけにもほとんど反応がない。

保育者は、迎えにきた母親にE君の様子を伝えようと、身振り手振りや簡単なポルトガル語や日本語で伝えようとするが、あまり伝わっていない様子である。母親は、慣れない土地での生活や仕事にとっても苦勞している様子で、表情から余裕のなさや疲れが伺える。担任は、E君と母親に対して十分な保育や支援ができていないと考え、主任と園長に相談し、今後の対応について検討することになった。

演習

- ① E君は、保育園での生活でどのようなつらさを抱えているのでしょうか。そのことに対して、保育園が取り組む支援としては、どのようなことがあるでしょうか。
- ② E君の家庭は、どのような課題を抱えていると考えますか？ そのことに対して、保育園が対応できる支援としては、どのようなことがあるでしょうか。また、保育園以外の機関・施設・団体等による支援には、どのようなものがあるでしょうか。

【事例と演習2】 子どもの貧困

10月になって朝夕は肌寒くなってきたが、A君(4歳男児)は、半ズボンとTシャツの夏の服装で登園する日が続いている。A君は外遊びの時に寒さで

表 12－1 児童虐待の種別

身体的虐待	児童の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えること。 殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる など
性的虐待	児童にわいせつな行為をすること又は児童をしてわいせつな行為をさせること。 子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など
ネグレクト	児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置、保護者以外の同居人による虐待の放置その他の保護者としての監護を著しく怠ること。 家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など
心理的虐待	児童に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力その他の児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。 言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（面前DV）など

資料)「児童虐待の防止等に関する法律 第二条(児童虐待の定義)」厚生労働省ホームページ・児童虐待の定義と現状より作成
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/about.html

影響が大きく、発見後すぐにでも児童相談所が介入する必要がある。また乳幼児には被害の心配がないと思われる向きもあるが、乳児に対する被害もあることは理解しておくべきである。

これらの虐待はどれか一つの種別限定される場合だけでなく、複数の虐待が生じていることも少なくない。身体的虐待もあるが、ネグレクト傾向であり、かつ心理的虐待もみられるなどといった状況もある。



2) 児童虐待の現状について

2019（令和元）年度、全国の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は193,780件と過去最多である（図12－1）。虐待の種別では心理的虐待が56.3%と半数を超え、身体的虐待が25.4%、ネグレクト17.2%、性的虐待が1.1%となっている。心理的虐待が多いことには理由がある。児童福祉法の改定のなかで、2003（平成16）年度から、家庭で生じる面前DVは心理的な虐待として処理することと